参考資料２

令和3年度 第3回 荒尾市観光振興計画策定等委員会 議事録要旨

日 時：令和３年８月６日（金） 午後３時 00 分～午後４時 30 分
場 所：荒尾市役所 11号会議室
出席者：荒尾市観光振興計画策定等委員会委員 20 名 （別紙出席者名簿のとおり）
事務局：産業振興課課長 岩下和隆、同課長補佐兼観光推進室室長 江口雅臣、
同副主任 平山裕也、同副主任 西卓也、同主事 築地早紀
ジャパンインターナショナル総合研究所 松崎良祐、板野友里菜
オブザーバー：荒尾市観光協会事務局長 徳村美佳

1. 開会

事務局が、開会のあいさつと資料の確認を行った。

2. 委員長挨拶

山代委員長が、あいさつを行った。

・厳しい暑さの中、また、東京オリンピックも終盤に入り、ゆっくりと自宅で観戦されたいところ、ご出席いただき感謝している。
・本日の会議では、これまでの協議のまとめとして素案をお示しすることにしており、ひと区切りがつくところではあるが、実現に向けた検討はまだ続くと思っている。忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. 新任委員紹介

事務局が、資料１に基づき、新任委員を紹介した。

4. 報告

事務局が、資料 2 に基づき、前回の荒尾市観光振興計画策定等委員会における協議の経過について報告した。

5. 議事

(1)第3期荒尾市観光振興計画（仮称）の素案について

事務局が、資料 3-1 に基づき説明した。計画のタイトルについては、8 月末まで意見を募集し、次回の会議で決めることとなった。意見等は以下のとおり。

【意見等】

○ 国で策定している「明日の日本を支える観光ビジョン」で掲げられている「3 つの視点」と「10 の改革」は素晴らしい内容だと思うし、これが揃えばお客様を呼べると思う。「10 の改革」の中の一つに「文化財」とあるが、荒尾市でいうと万田坑や宮崎兄弟の生家が該当する。これらの資源について、お客様のニーズを踏まえて磨き上げのポイントを重点的に絞った上で、予算を配分して推進していくことが必要ではないかと思う。

○　新型コロナウイルス感染症の影響がここまで長引くとは多くの人が思っていなかったように、予測が難しい時代になっているため、今後は先を想像することが非常に大事になってくると思う。アフターコロナの状況を想像し、準備をしておくことで、情報発信や取組みをし損ねることがないようにしたい。情報発信についても、令和 7 年に SNS の利用状況がどうなっているのかは誰にも分からないので、時代に合わせて効果的に情報発信ができるよう、情報収集を継続していきたい。計画を立てることは素晴らしいが、実効性を確保できるよう、私も頑張っていきたい。

○　KPI になっている「JR 荒尾駅乗車人員」の目標値 1,500 人/日は高い数値であると思う。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前であれば、前向きに目指していきたいと考えていただろうが、コロナ禍で利用者数が半減している中では、妥当性の判断が難しい。目指すことに反対するものではないが、それだけ高い目標であることを認識してほしい。

○　乗合バス事業は右肩下がりの状況である。観光面では、荒尾駅のバス乗り場が分からないと尋ねられることが依然として多いこと、宮崎兄弟生家・資料館への路線バスでのアクセス方法についても質問が多いことから、案内方法に工夫が必要と感じている。一方で、あらおシティモールには大型のバスロケシステムを導入するとともに、夏休み期間中には子ども向けの乗り放題定期券も販売しており、少しずつだが利用促進のための施策を行っている。続けていくことが大事であるので、HP 等をご覧いただき、活用していただきたい。

○　将来像の実現に向けては、一つ一つのコンテンツを魅力あるものにしなければ収入につながらないと思う。まずはコンテンツを磨き上げることに集中してもよいのではないかと思う。

○　令和 7 年頃にはインバウンドも回復していると思うが、ここ 1 年以上全く来訪がない状況を踏まえると、展望するのが難しい。今後、ウィズコロナの状態がどの程度続くのかは分からないが、本計画における喫緊の取組みとしては、修学旅行の誘致が大事になってくると考えている。修学旅行で訪問される地域もコロナ禍で大きく変化しているため、そのような状況も踏まえ、荒尾市とも連携し取り組んでいきたい。

○　以前、上熊本駅で、学生が駅員にグリーンランドへの行き方を尋ねており、大牟田駅からのルートを案内されていた場面に遭遇したことがある。荒尾駅からのアクセスを案内すれば、荒尾駅の利用者も増えるし、あらおシティモールへの集客も見込めるのではないだろうか。熊本駅や上熊本駅にパンフレット等を置いてもらうことで、子どもたちも迷うことがなくなると思う。

○　マジャク釣り体験は、コロナ禍でかなり厳しい運営となっている。一旦中止してしまうと、再開しても客足が戻らないという現状があり、課題となっている。

○　観光客が減少している状況下で、良いものをつくらないといくら情報発信しても意味がないと思う。まずはコンテンツの魅力づくりが先だと考える。漁業分野でも後継者が減っているという課題

があり、荒尾梨や小代焼も若手の生産者がいないという課題がある。道の駅についても、物販機能の充実を通じ、農業、漁業、焼物等の生産量を増やしていくことが大事ではないか。農業振興計画や漁業振興計画、飲食店などの商業振興など、個々に取り組む必要があり、観光振興計画だけで総観光客数を増やすのは難しいのではないか。ブランドづくりが大事で、魅力自体がないと、情報発信だけでは難しいと思う。

○ これまでの会議を通じて、荒尾市の観光の現状や問題点について意見が出尽くしたと感じており、それらの意見を汲み取りながらまさに「One team」の計画としてまとめられていると思う。今後、感染症だけでなく、気候変動や国際情勢、社会情勢の変化も目まぐるしく、我々が予期しないような状況も起こり得ると思うので、アンテナを高く張って、ニーズの変化を捉えながら、毎年度の実施計画を作成することができれば、さらに時代に合った荒尾市の観光の新しい形ができていくと思う。

○ 時代の変化に合わせて柔軟に事業展開ができるよう、実施計画の作成や進捗の管理をしていくことが重要だと考える。情報発信などは積極的に行っていきたい。

○ KPI の目標値が全体的に高いと思う。「おもやいタクシーの年間利用者数」を除けば、令和 2 年度の実績に比べてほぼ 1.5 倍にしようという考え方かと受け止めた。目標設定は重要なところなので、適切な数値を出さなければ施策との整合がとれない。
「ARAO Pay」に関しては、事業開始後 4 日目の時点で約 1,000 人の方にダウンロードいただいている。驚くのはアプリ導入者のうち、50～90 代の方が半数を占めているということで、90 代の方も 3 人いるなど、意外とデジタルが進んでいると感じている。目標値に近づけられるよう努力したい。

○ 荒尾市のことが好きでこれまでも応援してきたところであるが、今回改めて荒尾市に足りない部分や弱い部分について話し合う機会をいただけて感謝している。弱い部分を見つめ直す中で、半面、良い部分にも目を向けることができた。
また、荒尾市はメディアに取り上げてもらえる回数が阿蘇地域と並んで多いように思う。広告費を使わずとも宣伝できるのは強みである。加えて、グリーンランドの TVCM もあり、それにより荒尾市が周知されているという強みをもっと伸ばせるよう、今後も戦略を練っていけたらと思う。

○ 数値目標等に関しては、「あらお海陽スマートタウン」のまちづくりもあることから期待を込めた数値であると理解しており、今後まちづくりが進み、より具体的な段階に入ってくれば、改めて整合等を検証する機会も必要かと思う。
一方、将来像に関するロゴマークが作成されたが、このように分かりやすく伝えようとする姿勢が大事だと思うし、評価している。
会議の場で得た情報や本計画に基づく今後の取組みについて、まずは身近な人に伝えることから始めていきたい。

○　数値目標等について、数値が大きい割に、どのように達成するのかというビジョンが不足しているように感じている。加えて、未だコロナ禍が継続している中で、この水準を目指して大丈夫なのかという不安もある。今できないことを望んでも仕方がないので、できることは何なのかを考えた方がよいと思う。リアルで人を呼び込むための取組みとは別に、今の「ステイホーム」期間中に寄り添える何かを発信し、実行することも是非考えていただきたい。
プロモーションについては、ピックアップの仕方や興味をそそるような見せ方が上手でないと感じる。大牟田市では、TV やラジオなどのメディア、YouTube などの映像や音声を絡めたことによって、成功した実績がある。利用できるものは最大限に利用したい。
個人的には「のあそび lodge」に期待しており、カフェが併設されるなど機能が充実すると、宿泊客も増加し、観光にもつながると思う。また、荒尾市の観光について情報発信をする観光コンシェルジュの配置も検討されるとよいと思う。

○　目標設定は高いと感じるが、達成に向けてどのような取組みが展開できるのか期待しているところもある。まずは、それぞれのスポットの魅力を磨いてブランドを育て、それからお客様をお呼びするのが自然な流れだと思う。インスタグラム等を見て来たが期待外れだったなどと残念な思いをさせたくないし、魅力を深堀りすることが「あらおファン」づくりにつながると思う。
なお、委員各位におかれては、各団体の中で、会議の経過や内容について十分に共有していただきたい。職員などからも魅力づくりに向けたアイデアが出てくるかもしれないし、市民にも共有することで、協力者が増えるかもしれない。この取組みをもう一歩踏み込んで広げてほしいと思う。

○　各回で行われたワークショップ等によって、多くの意見が反映された計画になっていると思う。これからは、「“One team”による情報発信」でひとりひとりの行動が大事になってくると思う。
前回の会議で、子育て世代向けの情報発信が少ないという意見があったが、子育て世代が相互に情報発信していく仕組みをつくり、いかに“One team”の中に巻き込んでいくかが重要だと思う。
玉名地域振興局では、今年度、窯元巡りなどの企画を検討しており、よりターゲットを絞り情報発信していくことを考えている。周知に当たっては、そのジャンルを好きな方同士で発信するのが効果的だと考えられるため、どうその流れをつくっていくかがポイントであると考えている。

○　荒尾市の課題から各種施策に至るまで、各分野の方と率直な意見交換ができ、計画の内容も充実したものとなっていると思う。早速今年度から目標に向かって施策に取り組んでいくことになり、多方面で連携を深めていきたいのでよろしくお願いしたい。ここに至るまで委員各位には大変お世話になり、感謝を申し上げる。

○　初回の委員会でもお伝えしたが、観光振興に関しては、①観光はまちづくりの手段であること、②観光は時代の変化を映す鏡であること、③観光は融合産業であること、という 3 点の観点が重要である。
①については、計画の中で、観光消費額の拡大、「あらおファン」の拡大、地域づくりの推進、という 3 つの重点戦略として盛り込まれている。

②については、コロナ禍のみならず、人災、自然災害を含めたカントリーリスクを念頭におきながら、今後作成する実施計画が重要になってくる。その時の状況に合わせて目標数値などを検討し進める柔軟な対応が必要だと思う。特に観光消費額の考え方については、以前は観光消費額といえば宿泊が一般的であったが、コロナ禍でマイクロツーリズムという言葉が生まれ、荒尾市の特性に鑑みても日帰り観光客は非常に重要で、ボリュームも大きいことから、日帰りの観光消費額を参考値として入れる提案をしたところである。

③については、農業や漁業をはじめ、関係団体が相乗効果を高めていけるのが観光産業だと考えている。国の統計でも「観光産業」という分類はないが、計画にある「One team」とは、宿泊や交通を含め、色々な産業の組み合わせが考えられるという意味でもあると理解している。

情報発信が中心になることへの懸念も理解でき、行ってみたががっかりだったというのは負のインパクトが強く、期待値を大きく下回るのはネガティブな口コミにつながっていくので、慎重に進めていく必要がある。それぞれのコンテンツやサービスを磨いていくことが大事なのは言うまでもないが、一方で、荒尾市にはグリーンランドを核として毎年 100 万人を超える観光客がすでに来ている実態があることを再認識してもらいたい。既に来ている方がいかに消費額を高め、回遊して滞在時間を延ばすか、という観点からすると、情報発信不足だと感じている。そのような側面を踏まえると、情報発信を重視することは一定の意義があると考えられる。

なお、今後の計画の推進に当たっては、進捗状況のモニタリングが必要になってくる。進捗管理の体制を明確にするとともに、できれば半年に1回、理想としては四半期に1回程度、戦略会議という形で開催し、PDCA の確認ができればよいと思う。部会制とするパターンもあると思うので、検討してほしい。

○ 計画のタイトルについて、「荒尾」という漢字が固い印象を与えると思う。イメージづくりにしかならないかもしれないが、柔らかく感じるために平仮名で表記にしてほしい。

6. その他

事務局が、報告事項を行った。内容は以下のとおり。

・議事録等を市ホームページに掲載するにあたり、内容の確認について協力をいただきたい。
・ 次回の会議は9月17日(金)16:00から開催予定である。
・8月14日(土)16:30から TKU「若っ人ランド」で荒尾市内の観光 PR に関する番組が放送されるのでご覧いただきたい。
・荒尾梨に関するキャンペーンを開催中である。今年は収穫期が10日程早まっている。

7. 閉会

事務局が閉会を宣言した。

令和3年度　第3回　荒尾市観光振興計画策定等委員会　出席者名簿

分野	団体名	役職名	氏名	備考
学識経験者	九州産業大学	准教授	室岡　祐司	
観光産業	荒尾観光振興株式会社	代表取締役	古庄　淳一郎	
	有明リゾートシティ株式会社	取締役宿泊料飲部長	別府　正文	
	九州旅客鉄道株式会社荒尾駅	駅長	西川　　誠	
	産交バス株式会社玉名営業所	副所長	大草　武美	
	西鉄バス大牟田株式会社	取締役運行部長	村松　進悟	欠席
	荒尾市タクシー協会	有限会社荒尾タクシー	山代　恵嗣	欠席
観光関連産業	荒尾市商店連合会	会長	蜷川　智之	
	荒尾飲食店組合	理事	宮島　愛実	欠席
	グリーンランドリゾート株式会社	取締役経営管理室長	佐伯　賢二	
	玉名農業協同組合荒尾市総合支所	地区理事	荒木　妙子	
	荒尾漁業協同組合	代表理事組合長	西川　幸一	
	熊本北部漁業協同組合	副組合長	前田　和隆	
観光公共組織	熊本県観光連盟	事務局次長兼海外誘致部長	吉田　二浩	
	熊本県観光連盟	国内誘致グループ主任	西村　紗季	
	荒尾市観光協会	会長	山代　秀徳	
	荒尾商工会議所	副会頭	丸尾　淳一	
市民参画	荒尾商工会議所青年部	会長	清田　　聡	欠席
	荒尾市応援隊長	—	西村　赤音	
	市民公募	—	上田　恵子	
	市民公募	—	古賀　真由美	
	市民公募	—	松永　明子	
行政	熊本県県北広域本部玉名地域振興局	主幹	冨永　由美子	
	荒尾市	産業建設部長	北原　伸二	

※敬称略、順不同